

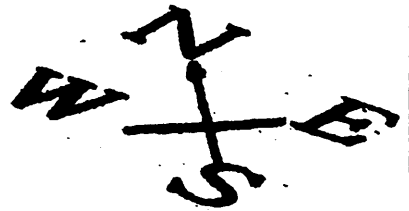
エコネット

2008年 5月 1日

第168号

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称 エコネット)



主 汚染排出物から見る武田薬品新研究所
な の危険性
記 ・大気汚染昨年12月の測定結果から
事 ・村岡のまちづくりウォッチング

事務局〒252-0816 藤沢市遠藤849-9 青柳

☎/FAX 0466-87-4922(夜間のみ)

<http://comcom.jca.apc.org/econet/>

タバコとクルマと・・・

道の端を歩いていると車が私をめがけて突進してくる。とっさにハンドルを切って避けるが、恐怖そのものである。やっと対向車とすれ違うだけの道幅で歩道のない道路の話だ。

歩行者のためらしい白線があるが何の意味もない。こういう道路は一方通行、つまり一車線にして歩道を設けるべきである。ドライバーはいくぶん不便になるが、人命には代えられない。これで車を使うところを徒歩か自転車にする人が増えれば、環境によい。

とにかく車が多すぎる。私は車の多い道よりも、遠回りでも裏道を歩くことが多い。それでも車は侵入してくる。この間、うしろからクラクションを威嚇的にならされたので、ドライバーをにらみつけたら「だって危ないですから」と言い訳した。危ないのは車で、人ではない。裏道から車を締め出すわけにはいかないが、強い規制が欲しい。

20～30年前まで、人々は所嫌わずタバコをふかしていた。道路はもとより会社でも、会合でも、芝居小屋でも、買い物しながらでも……。このごろは人の集まる所で喫煙する人は見えなくなったが、もっと悪質な車がそれに替わっている。

最近、藤沢駅周辺の数百メートルが路上禁煙エリアになった。数カ所の喫煙所以外は全面禁煙である。路上喫煙でいけないのは歩行喫煙である。火を外側にして歩けば対面者の服を焦がす恐れがないわけではない。子どもが失明した事件もあった。

ポイ捨ても怖い。乾燥した冬場は火事の危険を伴う。私は住まいの近所ではモク拾いをやっているが、火のついたまま捨てられているのが目立つ。火は自然に消えているが見れば判る。

路上禁煙エリアは藤沢駅周辺だけでは意味がない。まず、辻堂駅や湘南台駅などの周辺から市街地全域に広げるべきだ。担当の藤沢市役所環境管理課に訊いた。「ゆくゆは、そういうことを考えていくつもりです」との返事。役所はのんきなところだ。喫煙者はいたる所で締め出されているから、歩行喫煙者は禁煙エリア以外では増えるだろう。役所はそこに目を付けて早急に対処すべきである。

車にも同じことがいえる。まず駅周辺の禁煙エリアから締め出し、他の市街地では規制をかけ、歩道など道路を整備すべきである。この点も環境管理課に質してみた。「それは考えていません」とのこと。「環境の悪化はタバコのせいだけではありません」「車はもっとひどいと思いませんか」「その通りと思います」……。のれんに腕押しだった。植木等流に「わかっちゃいるけど、で～きない」ってことか。車の規制を拒んでいる闇の力がある。

藤沢市は県政や国政にさががけて闇の力をうち破りたい。

(槐 一男)

汚染排出物処理からみる 武田薬品（バイオ・遺伝子組換え）

研究所建設の危険性

小林 麻須男（藤沢エコネット環境影響部会）

武田薬品は、大阪市とつくば市にある研究所を統合してより高度な研究所を作るため、藤沢市村岡地域に研究所建設を進めようとしている。しかし、藤沢・鎌倉にまたがる人口密集地に、こうした危険物を取り扱う研究所建設が妥当かどうか、外部に与える影響はきわめて大きい。今回、武田薬品から提供された環境影響予測評価書で示された汚染排出物処理対策を中心に、その適否を検証してみた。

①、はじめに 一同研究所建設の是非を論議するにあたっての観点—

第1に、本研究所が、バイオ遺伝子組み換え等に関する我が国最大級の研究所であり、世界的にバイオハザードが問題視されている中で、放射能同様、同研究所で取り扱う病原体やバイオ菌は、絶対に外部に流失させることがあってはならない危険物の研究施設であるという認識にたつて、この施設の建設問題が論じられねばならない。

第2に、同研究所建設予定の旧武田薬品工業工場跡地は、工業地域とはいえ、周辺に民家が密集し、隣接して病院や福祉施設の建設が予定されている市街地地域であり、こうした地域に施設を建設することによって住民の安全が守られるかどうか検証されねばならない。

第3に、同研究所から排出される危険な汚染物質が、外部にどのように影響を与えるか、又流出防止対策が十分取られているのかも検証されねばならない。

第4に、こうしたバイオ、遺伝子組み換え施設の安全性に対する法的監視・規制が適切に講じられているかどうかを検証されなければならない。

以下、同研究所で発生し、外部に流出する恐れのある汚染物について、建設計画では、必要な防止対策が立てられているというが、果たしてそうか、検証してみたい。

②、実験棟で発生する汚染空気の排出対策について

同研究所では、実験棟から発生する空気汚染対策として、室内を常に新鮮な空気で満たすために、空調装置は外気を直接導入し、再循環せず強制排出するシステムを取っている。しかも実験棟は39m高さの建物を15棟作り、それぞれの棟で違った病原体の研究をしようというものである。そして、大量に送り込まれた空調空気は、それぞれの棟の異なった研究媒体に接触しながら、外部に強制排出される事になる。循環使用しないということは、万一、施設内実験室で発生した病原菌から研究員の健康を守るための措置とも考えられるが、一方、地域住民にとっては排出された汚染空気を吸わされる危険性にさらされることになる。武田薬品の文書で計算すると、大量の排気を施設内から外部に放出すること

になっている。スクラバー洗浄では、構内浮遊物がスクラバー飛散水とともに外気の放出される危険性もあり、フィルターについても全ての病原体を100%補足することが出来るものではなく、また劣化による性能低下、故障も皆無ではない。強制排気して外に出そうというのは、そこに何らかの危険性をはらんでいるからであり、市民としては、実験室から発生する汚染空気の排出は、軽視出来ない問題である。武田製薬は、循環再利用型の空調施設を設置すべきである。

③、研究所から排出される汚染廃水の処理について、

同研究所の給排水のフローを見みると、4500m³/dの取水に対し、排水は2200m³/dとなっている。約2000m³の水が、空調関係の蒸気、スクラバー飛散水等で、外気に放出されるとの事であった。

一方、毎日1000m³/d排出する実験室系の廃水は、処理後は空調排水、生活排水と共に、公共下水道に放流される事になっている。

実験棟排水は、実験溶剤、実験器具、実験動物の洗浄等危険な病原体が混入する可能性が高いものばかりであり、万一、こうした排水に危険な病原体が混入した場合、社会に大きな被害をあたえるものである。

空調系の排水貯留槽とは別槽を設け、管理する必要があるのではないかと。また、空調系の排水においても、汚染空気の洗浄を目的とするスクラバー排水は、空調系の排水といえども危険性が少ない訳ではない。本来こうした危険な排水は、公共下水道に大量に流し込むとはどういうことなのか。

④、研究所排水を公共下水道に流し込むことの問題点

武田薬品は、研究所内から発生する大量の廃水を、藤沢市の公共下水道に放流すると言いい、何故、武田薬品に自己処理させないのか不可解である。

放流が予定されている大清水浄化センターは一般生活排水の活性汚泥による浄化が主目的であり、病原体の殺菌処理出来るような施設ではない。

万一、病原体が流入した場合は、逆に病原体がここで増殖培養される危険性さえ生まれる。しかもそれが、境川に流され、観光地江の島まで流されて行くとしたら、これは大問題である。

武田薬品は、汚染排水を公共下水道に流し込むのではなく、自ら処理する循環再利用型の排水処理施設を設置すべきである。バイオ、p3病原菌、遺伝子組み換えの排水は、通常の産業廃棄物よりもっと危険な排出物であるという認識が、武田薬品にも、藤沢市にも欠如しているとしか言いようがない。

⑤、汚染排水に対する行政対応の問題点

汚染排水に対する神奈川県環境部の対応は、藤沢市の公共下水道に流し込むから環境アセスの対象にならないとして、汚染排水を環境影響調査項目からはずしている。

一方、藤沢市大清水浄化センターを管轄する下水道課に聞いてみると、バイオ・P遺伝子組み換え関係の排出物については、現在の下水道条例には規制項目がなく、何らチェックできない、県の方で、そこらの辺の問題は考えて貰いたい、という対応であった。

行政は、法律や条例など、法的規制がないと対応出来ないというのもおかしいが、結局、県も市も汚染排水の問題点については十分な調査もせず、工場建設を認めたという事であり、これは、あまりにもバイオ、遺伝子組み換え施設に対する行政の対応が甘すぎるのではないかと思われる。

⑥、汚染廃液の処理について

実験室排水の内、一部重金属・有機物溶媒回収、滅菌処理された排水は、専門業者に回収させることになっているが、予定している専門業者名、処理方法を明らかにさせる必要がある。汚染廃液等を、自前で処理する施設を開発することも、危険なp3病原菌研究企業の課題ではないか。

⑦ 排煙の汚染防止対策について

実験器具、実験動物には、危険な病原体の付着、ダイオキシンの等の発生が高いものが含まれている。中途半端な焼却で、危険物の放出を発生させてはならない。

武田製薬の焼却炉は、危険な病原菌を植え付けられた実験動物の焼却、実験器機の焼却まで含まれており、荏原以上の汚染防止対策が講じられねばならない。

⑧ 焼却残渣の処理について

専門業者に回収させるのではなく、1300℃の温度管理によって熔融し、ガラス状にして、危険物を密封させる方式も検討されてしかるべきである。

⑨ 汚染雨水の処理について

雨水対策については、貯水地にためる前に別途貯留槽を設け、管理する必要があるのではないか。

⑩、巨大研究所建設による風害対策

武田薬品研究所は、巨大な建物で、湘南特有の海風山風を遮り、四季の風道を変え、ビル風の発生、台風時の強風の流れを変えるなど自然現象に大きな変化を与えるものである。巨大建物による周辺地域への風害被害の予測調査、十分な風害対策が必要である。

⑪、バイオ・遺伝子組み換え施設に対する法的規制

神奈川県にも藤沢市にもバイオ、遺伝子組み換え施設に対する法的規制がないため、武田薬品研究所の建設に当たっては環境アセス程度のチェックしかしていない。住民の健康と安全を守ってゆく為には、バイオ・遺伝子組み換え施設に対する法的規制が求められると言わなければならない。「吹田市遺伝子組み換え施設に係わる環境安全確保に関する条例」は藤沢市にとっても大いに参考になる条例である。「給排気、給排水の系統及び種類、廃棄物の種類および処理方法などを届け出でさせ業者との協定、記録の管理、立ち入り検査」などを取り決めている。吹田市は平成6年に条例を制定したとの事であった。

⑫、まとめ

—人工密集地に、バイオ、P3病原体研究所を建設することの是非—

以上、何点か汚染排出物の問題点を検討してきたが、排気、排煙、排水等を含め、研究所近隣にまで密集した市街化地域に、P3病原菌、バイオ研究所を設けるには万全な廃棄物処理対策が必要であり、欧米の様に密集地との間に一定の安全地域を設けることも必要になってくる。

現代において、高度なバイオ研究・病原菌研究が必要であることを否定するものではないが、現在予定している人口密集地域に汚染物場外放出型の研究所を設けることは、あまりにも危険度が高く、また市民の安全を確保出来る汚染排出物処理機能を備えた研究所と言うことは出来ない。

また、神奈川県においても、藤沢市においても安全確保の為に法的規制は、なんら整えられていない。

よって、本稿の結論としては、現在予定している人口密集地での武田薬品バイオ・P3病原菌等の研究所建設は、

- i、研究所内の汚染廃棄物は絶対に外部に出さないという場内廃棄物再処理施設の完備、
- ii、住民の安全確保を保証出来る法的整備

が整わない限り、取りやめて貰うのが妥当と考えるものである。

完成予想図



「P3施設を考える会」が発足！

環境影響評価手続き中の武田薬品新研究所建設問題には様々な問題点があることが、学習会を通じて明らかになってきました。4月19日の藤沢エコネット学習会に続いて4月20日には、神奈川ネット・植木さんが呼びかけた4月5日の学習会参加者の集まりが開かれ、市議員さん達と周辺住民に問題点を広く知らせることが大事だと話し合われました。また、現法律ではチェック機能がないことから、市(住民)と武田薬品との協定書や吹田市のような条例が必要だとの意見が多くでて、「P3施設を考える会」が発足しました。(青柳)

藤沢の空気はきれいとはとても言えない

藤沢の空気を考える会 澤野井道子

かながわの大気汚染測定一斉調査に合わせ、「藤沢の空気を考える会」においても2007年12月に330件の天谷式小型カプセル・アルカリ紙によるNO₂の測定を行いました。

道路沿い172件の平均は0.066ppm、非道路沿い158件の平均は0.042ppm、全体330件の平均は、0.055ppmでした。この値は国の「環境基準0.04ppm～0.06ppm以下であること」におさまっていますが、上限に近く、とても空気がきれいであるとは言えない状態です。交通量が多く渋滞している道路沿いは例年と同じような場所が高濃度（ワースト10）になっています。

今年も来る6月5、6日に一斉測定を行います。希望者はご連絡ください。

07年12月

測定結果の地域別集計

12/6～12/7

	道路沿い		非道路沿い		合計	
	件数	平均(ppm)	件数	平均(ppm)	件数	平均(ppm)
片瀬地区	13件	0.072	29件	0.049	42件	0.056
鵠沼地区	11件	0.075	8件	0.033	19件	0.057
辻堂地区	16件	0.057	3件	0.034	19件	0.054
村岡地区	13件	0.041	11件	0.033	25件	0.037
藤沢地区	34件	0.070	10件	0.052	44件	0.066
明治地区	28件	0.047	20件	0.035	48件	0.042
善行地区	18件	0.057	13件	0.044	31件	0.051
大庭地区	11件	0.086	7件	0.033	18件	0.065
六会地区	9件	0.078	15件	0.040	24件	0.054
湘南台地区	7件	0.062	10件	0.049	17件	0.063
遠藤地区	1件	0.029	11件	0.038	12件	0.038
長後地区	4件	0.086	9件	0.039	13件	0.053
御所見地区	7件	0.118	11件	0.050	18件	0.076
全体	172件	0.066	158件	0.042	330件	0.055

ワースト10

	濃度 ppm	場所		濃度 ppm	場所
1	0.230	用田 1104 西用田バス停	6	0.149	用田 (メッシュ平均)
2	0.158	大庭隧道城南側出口	7	0.149	大鋸 (藤沢橋)
3	0.158	大庭隧道城南側入口	8	0.142	藤ヶ谷 荻祭センター前
4	0.157	城南 4-7-10 木白 山信号	9	0.139	円行 2 藤沢北警察署前
5	0.152	たちばな通り入口	10	0.131	用田 西用田バス停

村岡のまちづくりウオッチング

4月20日、16名の参加で村岡開発予定地域の見学会を行ないました。村岡公民館前、弥勒寺そして東海道線の跨線橋の上から新駅設置場所を眺めました。現在はレンタルテニスコートになっています。この跨線橋は、車も通る橋で、人と自転車が隅で待つような状況でした。橋を渡ると静かな住宅街。ひっそりと御霊神社の森があります。開発され、新駅ができれば大きく住民の生活が変わることになります。神社の山を越えて油研工場跡地前、柏尾川にかかる改良された町屋橋を見ながら、武田薬品前へ。建物は、そのまま残され、ひっそりとしていました。工場の敷地内は、緑も多く、八重桜が満開で、松の新芽が伸びていました。既存の建物はすべて壊し、43mの建物が15棟も建つ研究所になることを想像しながら見学しました。新駅の予定場所は、すぐ目の前で、「武田研究所前」という駅名がつけられそうでした。

その後、場所を借りて昼食後、まちづくり構想と武田薬品研究所建設についての学習会を行いました。

参加者からは、「工業地域でのまちづくりは、おかしいのではないか。危険な実験施設なら、人の住んでいない地域に建設するべきではないか」「まるで考えていなかった内容で、驚いた。これから、市民に広く知らせていく必要がある」「駅をつくることは、現実味のある話なのか疑問である」「大船藤沢間は、4分。すぐ着いてしまう駅はいらないのではないか」「研究所の実験施設の安全対策が不十分で不安」など、さまざまな意見がだされました。

今後、検討委員会でどのような開発の手法がとられるのか。研究所の建設について住民の安全を確保するために条例づくりも必要ではないか。市民の声はどのように反映されるのか。市民が知らない間に開発も研究所の建設も進められてしまいます。現地調査で、明らかになったのは、市民のためではない開発内容です。

現在検討委員会が、3月に行なわれましたが、どのような内容か公開されていません。この検討委員会には、市民の代表は含まれていません。検討内容を市民に知らせるべきです。

JRは、新駅設置(請願駅)には、お金はださず、地域でお願いするとしています。ということは、新たに市民の税金が大量に注ぎ込まれるものです。市民の力を集めて勝手なことをさせないよう取り組みを強めう必要があるのではないのでしょうか。



ふじさわ環境フェア2008

「ストップ温暖化!明日につなごう 豊かな自然」

6月28日(土) 29日(日) 10:00~16:00

藤沢市民会館 小ホール・展示ホールほか

主催 藤沢市 連絡先 ☎ 50-2529 環境管理課



環境フェア協賛

野鳥観察会(探鳥会)

境川沿い~川名~新林公園へ

6月1日(日) 8:00~10:30 小雨決行

集合 JR藤沢駅南口(地下道入口付近)

あれば 双眼鏡 雨具等持参

主催 藤沢探鳥クラブ ☎ 25-2683

環境フェア協賛 学習会

安全・安心ヘルシーな食生活を」

講師 石黒正孝氏(農民連分析センター)

6月4日(水) 10:00~12:00

藤沢公民館和室

主催 新日本婦人の会藤沢支部

☎ 26-1980

ごみ有料化裁判(第8回)

多くの方の傍聴をお願いします

5月7日(水) 11時から 横浜地方裁判所

問合せ/藤沢・ごみ有料化裁判を支援する会 ☎ 44-2652

藤沢エコネット

5月17日(土) 10:00~12:30

1. 学習会 「村岡地区の開発」について 10:00~11:30

2. 総会 活動報告・会計報告 次期計画等 11:30~12:30

藤沢市民会館 教養室にて



◎環境フェア協賛行事

学習会 「どうすればできる?温暖化ガス削減!」

講師 金牧一郎氏(NGO ワールド・コンサベーション・トラスト・I WMCアジア局長)

6/14(土) 10時から 藤沢市民会館 教養室

会員募集→会費3000円 振込口座は→郵便局へ→00240-9-46501 藤沢エコネット

次回事務局会議 5月7日(水) 17:30~ 市民活動推進センターにて

《編集後記》いま、メディアはいっせいに温暖化防止や環境保全を報道し始めた。企業も取組みに本腰を入れ始めたかに見えるが、出し続けているNO2など温室効果ガス排出をどれだけ削減できるのだろうか?。洞爺湖サミットはもうすぐで、政府も何とか削減のためのサミット成功に取り組み始めたようだ。実績を残すようにこれからが正念場といえる。市民も削減のため協力と努力を一層すすめたい。環境フェアも成功に!

(H)